CULTURAL NARRATIVE CITY OF A

都市のカルチュラル・ナラティヴ

港区 × 慶應義塾大学アート・センター

カルナラビギナーズガイド

CulNarra! Beginner's Guide

～港区の文化資源 再発見～

編集：港区 / 慶應義塾大学アート・センター

はじめに

平成 29 年度から港区文化プログラム連携事業で、港区と慶應義塾大学アート・センターが連携して「都市のカルチュラル・ナラティヴ」（通称：カルナラ）を実施しています。これまでの連携の成果として、「都市のカルチュラル・ナラティヴ」でスポットを当てた港区内の文化資源を紹介する「カルナラビギナーズガイド」を作成し、2020 年以降のレガシーとして残します。文化資源は今後追加していきます。

カルナラ(都市のカルチュラル･ナラティヴ)とは

現代文化の発信地、国際都市として知られる港区は、同時に、多くの寺社仏閣や史跡、そして歴史ある企業が所在する歴史文化都市でもあります。このダイナミックな時間軸をもつ都市文化の眺望を、一層明らかにするためのプロジェクトが、「都市のカルチュラル・ナラティヴ」です。

今昔の文化資源や、文化を巡る学術的な成果を相互に連結し、文化の物語（カルチュラル・ナラティヴ）を形づくることによって、現代・将来の芸術文化活動を支え、文化観光の深化を図る。さらに、日本の文化に寄せられる国際的な関心に対応することを目指しています。

カルナラの詳細は、慶應義塾大学アート・センターのホームページをご覧ください。
http://art-c.keio.ac.jp/~/artefact

もくじ

1. 増上寺 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ P2
2. 泉岳寺 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ P3
3. 旧ノグチ・ルーム ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ P4
4. 三田寺町：明福寺、玉鳳寺、龍源寺＿＿＿＿ P5
5. NHK 放送博物館 NHK 放送文化研究所＿＿＿＿ P7
6. 味の素食の文化センター＿＿＿＿＿＿＿＿ P8

文化資源は不定期で追加します。

令和元年７月時点

増上寺

場所：港区芝公園 4-7-35

HP：http://www.zojoji.or.jp/

増上寺は、浄土宗の七大本山の一つです。明徳４年（1393）に、酉誉聖聰（ゆうよしょうそう）上人によって、現在の千代田区平河町付近の地に創建されました。徳川家の菩提寺（ぼだいじ）（先祖代々のお墓がある寺）となり、慶長３年（1598）現在の芝の地へ移転し、徳川幕府の手厚い保護のもと、繁栄しました。境内には、徳川将軍家の墓所や、江戸時代初期の面影を残す三解脱門があります。さらに、徳川家ゆかりの文化財や狩野一信筆の五百羅漢図などを所有しており、それらの一部を宝物展示室で公開しています。

カルナラポイント！

増上寺は、明治維新後、境内地の大部分が新政府に取り上げられ、大火にも見舞われ、江戸時代の繁栄は失われました。しかし、増上寺の総門である大門の位置は変わっておらず、旧子院（本寺に付属する寺院）の数々は現在まで残っています。例えば、廣度院（こうどいん）の表門から続く練塀（瓦と粘土を交互に積み重ねて築いた塀）は、江戸時代の御成道と大門通りの姿を残しています。廣度院は安芸松平家の宿坊（しゅくぼう）（参詣者が宿泊するための宿舎）であったため、門の中央には松平家の家紋が入っています。

参考文献
・『都市のカルチュラル・ナラティヴ’１７／ARTEFACT no.1』「都市のカルチュラル・ナラティヴ」プロジェクト編集、慶応義塾大学アート・センター発行、2018 年３月
・『都市のカルチュラル・ナラティヴ’１８／ARTEFACT no.2』「都市のカルチュラル・ナラティヴ」プロジェクト編集、慶応義塾大学アート・センター発行、2019 年３月

令和元年７月時点

泉岳寺

場所：港区高輪 2-11-1

HP：http://www.sengakuji.or.jp/

泉岳寺は、慶長 17 年（1612）に門庵宗関和尚（今川義元の孫）を迎えて、徳川家康が外桜田に建てた曹洞宗の寺院です。寛永 18 年（1641）の寛永の大火によって焼失し、現在の高輪の地に移転しました。主要な建物を完備した、諸国の 200 名近くの僧侶が学ぶ大寺院であり、「曹洞宗江戸三学寮」（僧侶や学生が寄宿して勉強するところ）の一つとして有名になりました。現在は、忠臣蔵に登場する赤穂義士の墓地があることで有名で、義士に関する文化財を多数所有し、公開しています。

カルナラポイント！

江戸時代、曹洞宗の三学寮の一つとして有名になった泉岳寺の周辺には、多くの学僧の下宿所があったと伝わっています。その家風を引き継ぎ、平成 16 年より、泉岳寺学寮講座が毎週開かれています。

幕末には、高輪接遇所（英国の領事館）が、山門の外の、現在の泉岳寺前児童遊園の地に設置されていました。当時の写真や錦絵でその姿を知ることができます。（都市のカルチュラル・ナラティヴ講演会「学問・文化プラットフォームとしての寺院：泉岳寺と禅の文化」（2018 年 11 月 18 日、泉岳寺）より。）

参考文献

・『都市のカルチュラル・ナラティヴ’１８／ARTEFACT no.2』「都市のカルチュラル・ナラティヴ」プロジェクト編集、慶応義塾大学アート・センター発行、2019 年 3 月

・『開国 150 周年記念資料集　江戸の外国公使館』港区立郷土資料館編集・発行、2005 年 3 月

旧ノグチ・ルーム

令和元年７月時点

場所：港区三田 2-15-45（慶應義塾大学三田キャンパス内）

HP：http://www.art-c.keio.ac.jp/archives/list-of-archives/noguchi-room/about-the-room/

慶応義塾大学三田キャンパスの戦後復興計画を任された谷口吉郎は、キャンパス全体が、すでにある建築と調和しつつ新しい息吹を感じさせるものになることを目指しました。谷口は、構想中であった第二研究室の懇談スペース「萬來舎（ばんらいしゃ）」への協力を、日本を訪れていたイサム・ノグチに依頼し、二人のコラボレーションによる空間が誕生しました。大学内では「ノグチ・ルーム」と呼ばれ親しまれたこの空間は、キャンパスを行き交う若い学生らの青春にふさわしい、清らかなデザインが心がけられました。

カルナラポイント！

旧ノグチ・ルームには３つの床が設けられています。歩く為の石の床、歩く為と座るための木の床、日本式に座るための畳の床で、この３つのことなる材質、機能を持った床によって日本と西洋の生活様式が一室に融合しています。

旧ノグチ・ルームは、慶應義塾大学で毎年 11 月頃に開催している「建築プロムナード」で公開しています。

参考文献

・『アート・アーカイヴ資料展ⅩⅡ　ノグチ・ルーム再び』展覧会カタログ、慶應義塾大学アート・センター編集・発行、2015 年３月

令和２年２月時点

三田寺町：明福寺、玉鳳寺、龍源寺

場所：港区三田４丁目・５丁目地域

明福寺（港区三田 4-4-14）

玉鳳寺（港区三田 4-11-19）

龍源寺（港区三田 5-9-23）

HP：　明福寺（ http://myoufukuji.jp/ ）

玉鳳寺（なし）

龍源寺（ http://www.ryugenji.com/ ）

三田寺町にある寺院の多くは、もともとは八丁堀や桜田といった江戸外郭に立地し、幕府の都市政策で現在の場所に移転してきました。

明福（みょうふく）寺は、真宗大谷派の寺院で、元和元年（1615）に桜田付近に創建されたのち、麻布三谷町をへて、天明元年（1781）に現在の地へ移りました。現在の本堂は寛政 11 年（1799）に再建されたもので、外陣と左右の余間との境に設けられた襖（ふすま）絵には、狩野派の絵師によって唐獅子（からじし）が描かれ、欄間（らんま）にも唐獅子が彫刻されています。

玉鳳（ぎょくほう）寺は、曹洞宗の寺院で、慶長 4 年（1599）に、八丁堀に創建され、寛永 12 年（1635）に現在の地へ移りました。江戸時代（18 世紀中頃以降）は、「西方三十三所観音札所参 16 番」として、「化粧地蔵」なども、古くから庶民の信仰を集めていました。

龍源寺（りゅうげん）は、臨済宗妙心寺派の寺院です。前身は龍翔院（りゅうしょういん）で、寛永元年（1624）には麻布今井村にあり、元禄 11 年（1698）に現在の地へ移りました。現在も伝わる水月観世音菩薩（すいげつかんぜおんぼさつ）は、庶民の信仰を集め、江戸三十三観音霊場地の 24 番に龍翔院の名前が挙げられています。五世正天（しょうてん）和尚に帰依していた中津藩藩主奥平昌成（おくだいらまさしげ）が、元文 4 年（1739）龍源寺と名を改めました。中津藩の藩士であった福澤諭吉は、一時期慶應義塾の分校を龍源寺においていたそうです。

カルナラポイント！

「寺院再訪：寺町の形成と変容」（2019 年 11 月 25 日）では、上記の３寺院を会場として、城下町「江戸」の中の三田寺町という広い視点と、各寺院の営みという身近な視点から、三田寺町の成り立ちや移り変わりについて考えるレクチャー＆見学会を開きました。

三田寺町は台地の上にあり、かつては海が見えました。現在は、埋め立てによって海が見えなくなりましたが、一歩足を踏み入れると、細い通りが複雑に入り組み、江戸時代の雰囲気を想像できるような静かな空間がまだ残っています。三田寺町の寺院は生活環境と一体となった中小寺院であり、一般の拝観を受け付けていない寺院もありますが、明福寺では年中行事や法話会、龍源寺では写経や座禅体験、ご開帳などが開催されています。また玉鳳寺の化粧地蔵は自由に参拝でき、美肌を求める女性の人気を集めています。

★下記 URL にて「寺院再訪：寺町の形成と変容」（2019 年 11 月 25 日開催）の上野大輔先生（慶應義塾大学文学部准教授）のレクチャーが視聴いただけます。

https://youtu.be/sK4OE-fWKW4

参考文献

・『三田寺町の江戸建築　東京都心にいきづく江戸時代の町と建物』港区教育委員会発行、港区立港郷土資料館編集、平成 21 年（2009）3 月。

・『瑞雲山龍源寺』松原哲明編集、龍源寺発行、平成 11 年（1989）7 月。

令和２年２月時点

NHK 放送博物館

場所：港区愛宕 2-1-1

HP：https://www.nhk.or.jp/museum/

放送博物館は、昭和 31 年（1956）に、世界最初の放送専門のミュージアムとして、“放送のふるさと”愛宕山に開館しました。放送機材や台本などの番組関係資料や、放送の歴史に関するさまざまな資料の保存、展示をはじめ、ライブラリーも公開しています。

NHK 放送文化研究所

場所：港区愛宕 2-5-1 愛宕 MORI タワー16F

HP：https://www.nhk.or.jp/bunken/

放送文化研究所は、昭和 21 年（1946）に設立されました。より豊かな放送文化を創造するための調査研究に取り組み、その成果は刊行物等で広く公開しています。

カルナラポイント！

NHK 放送博物館では、愛宕山に関する錦絵、写真なども所蔵しています。年に数回開催される企画展で展示されることもあります。4 階の図書・史料ライブラリー、番組公開ライブラリーでは、放送に関する図書や NHK の過去の番組を閲覧することができます。

令和２年２月時点

味の素食の文化センター

場所：港区高輪 3-13-65 味の素グループ高輪研修センター内

HP：https://www.syokubunka.or.jp/

平成元年（1989）の設立以来、食文化誌『vesta』の発刊、食文化に関連したテーマで開催するセミナー、研究助成など、食文化に関する研究の支援と普及・啓発に取り組んでいます。同センター内には、誰もが利用できる、食分野に特化した食の専門図書館「食の文化ライブラリー」と、「食文化展示室」があり、江戸時代の食の場面を描く錦絵や料理書に基づく再現料理サンプルなどの所蔵資料が公開されています（2020.1 現在）。

カルナラポイント！

「食の文化ライブラリー」では、江戸の料理書などの古い資料から新刊本まで約 40,000 冊を所蔵しています。食分野に特化した独自の分類で図書が排架されていて、一部の資料を除き、多くの資料が利用者自ら手にとって読むことができるのも嬉しいポイントです。